

Wikiつまみぐい

第10回 qwikWeb徹底解説

今回は、Wikiとメーリングリストを融合した「qwikWeb」について、開発の経緯、特徴、使い方、そして今後の展望まで取り上げます。

えとこういちろう (ETO Kouichirou)
えとーやすお (ETOH Yasuo)
yomoyomo (YOMOYOMO)

TEXT = えとこういちろう (ETO Kouichirou) 2006@eto.com
協力: えとー yasuo@etou.org

qwikWebの誕生

qwikWebの始まり

メーリングリストとWikiって実は相性良いかも
世の中にはさまざまなWikiエンジンがあります。新しいWikiエンジンが毎日のように開発され、日々新機能が追加されています。しかし、その中でもqwikWebは最も特徴的なWikiエンジンの1つかもしれませぬ。qwikWebは、メーリングリストとWikiが統合しているという特徴を持っており、このような機能を備えたWikiエンジンはqwikWeb1つだけだからです。

今回、qwikWebのインストールの仕方や使い方の説明に入りますが、その前に、このメーリングリストとの統合という特徴が何を意味するのかについて説明します。「メーリングリストと一緒にあって、それに何の意味があるの?」と思っている方もいらっしゃるかと思いますが、それに対する答えもきつと本稿に含まれていると思いますよ。

オフィスでの情報共有

2002年にオフィスでの情報共有のためにWikiが導入され、それが筆者の初めてのWikiとの出会いです。オフィスで共有する情報は、すべてWikiサイト^{注1}にまとめていくことになったのですが、当初はあまり良い印象を持っていませんでした。Wiki内の情報がごちゃごちゃ混乱していて、どこに何があるのか探すのが難しかったのです。

こんなに使ってられないと思ったのですが、「使いにくかったら自分で直せばいいじゃん」ということに気がきました。WikiはFrontPageも含めて自分で編集できるので、自分が使いやすいように変更すれば良いのです。筆者は、それまでに蓄積されていた情報を取捨選択し、整理整頓しました。するとこれまでの状態が嘘のように使いやすくなりました。

自分で使いやすくなるように整理したのだから、あたりまえと言えばあたりまえなのですが、Wikiは主体的に関わることによって大きな効果を発揮するという身をもちて体験できました。

大学における情報共有

その翌年に、ある大学^{注2}での新入生に対する情報教育を担当することになりました。ログインの仕方から、メールの読み書きまで基礎的なことを教えるのですが、そのカリキュラムの一部としてWikiによる情報共有を教えることにしました^{注3}。新入生にはメールの読み書きと同じくWikiの読み書きをして、授業のまとめをWikiに書くことを課題としました。

結果は大成功で、自己紹介のページを初めとして、次々とおもしろいコンテンツが作られるようになりました(図1)。

Wikiは学生だけでなく先生方にも受け入れられ、それによって学内のコミュニケーション環境は飛躍的に改善しました。授業のレポートの提出先をWiki

注1) WILiKiを使っていました。

注2) 東京芸術大学です。

注3) PukiWikiを採用しました。この経緯から、qwikWebはPukiWikiやWILiKiに近い記法を使っています。

図1 キャンパスで使われているWikiサイト



にする授業も出てきて、お互いのレポートをみんなが見られるようになりました。学生が日々の活動を記録したり、授業のレポートが掲載されたり、日記を書く先生が現れたりして、Wikiを見ているだけでお互いがどのようなことをやっているのかがよくわかるようになりました。

「建物の完成を第一の開校とすれば、Wikiの設置は第二の開校である」とおっしゃった先生もいます。

グループでの情報共有

キャンパスでの情報共有がうまく行くようになったので、次は教員の情報共有にWikiを使いたいという要望が出てきました。最初は学内Wikiと同じように教員Wikiを立ち上げれば良いと考えましたが、そんなに簡単にはいきませんでした。教員と一言で言っても、常勤と非常勤では共有できる情報に違いがあるし、助手の中だけで共有したい情報もあります。それらを適切に区別して特定範囲だけで共有できるようにしなければなりません。

それまで、どのように情報共有をしていたのかというと、おもにメーリングリストを使っていました。常勤だけ、助手だけ、またはそれを含めた教員全員といったそれぞれのメーリングリストが用意されており、内容に応じてメーリングリストを選択することで情報の共有範囲を区別していました。つまり、メーリングリスト1つにつき、情報共有範囲が1つあるので、それに対応した数のWikiサイトが必要ということになります。

メーリングリスト？ グループアドレス？

ここでメーリングリストという言葉を使いましたが、この言葉は注意が必要です。たとえば、ruby-list

のような、希望すれば誰でも入れる公開型のメーリングリストだけを称してメーリングリストと呼ぶ人もいます。

しかしここでは、特定のグループ内の情報共有だけに使われる非公開型のメーリングリストを含めてメーリングリストと呼んでいます。通常は前者の意味に使われるのだとすれば、後者の非公開型メーリングリストのことを「グループアドレス」といった別の言葉で呼ぶほうが良いのかもかもしれません。

メーリングリストによる情報共有の統合

このように、ふだんメーリングリストだけで共有しているような情報を、いかに Wikiによる情報共有に移行していけば良いのかしばらく悩んだのですが、実はこの悩みは本末転倒していることによく気付きました。

メーリングリストによる情報共有で満足しているのであれば、それを使い続ければ良いのです。それだけでは足りない用途が出てきたら、そのときにはじめてWikiを使えば良い。しかし、その両者をシームレスにつなぐしくみはまだ存在していない。これを解決すれば良いのだということがわかりました。

そこで、ふだんは普通のメーリングリストとして使え、それだけでは足りない用途が出てきたらWikiを同時に使えるようなシステムというアイデアが生まれました。これがqwikWebの「メーリングリストとWikiの統合」というアイデアの出発点です。

qwikWebでは、1つのメーリングリストと1つのWikiサイトがつねに同時に作成されます。そのWikiサイトにアクセスできるのは、メーリングリストに含まれているメンバだけです。

このようにメーリングリストとWikiサイトで情報共有範囲を一致させることによって、メーリングリストに流せる情報は同じように Wikiサイトにのせることができ、情報公開範囲がとてわかりやすくなります。

また、同時にメーリングリストとWikiが対応していることで、いくつかの工夫が導入できます。メーリングリストに流れたメールは自動的にWikiにも書き込まれるので、メールアーカイブのように使うこともできます。

その他、Wiki上で編集があったときにはその編集

記録が1日1回メーリングリストに流れるので、Wikiで誰かが編集したけど誰も気付かないといったことはなくなります。

このようにメーリングリストと統合することによって、Wikiが持っていた弱点をいくつも改善することができるようになりました。メーリングリストの長所とWikiの長所を統合したqwikWebを、皆さんもぜひ使ってみてください。

qwikWebを試しに使ってみたいという人は、筆者

が提供しているqwikWebの実験環境である「qwik.jp」を使ってみてください。

<http://qwik.jp/>

また、自分のサーバにいれて使ってみてみたいという人は、ひきつづき、qwikWebのインストールの仕方をご覧ください。また、qwik.jpのサービスを利用される場合は、その次の「qwikWebの使い方」からご覧ください。

qwikWebインストール

qwikWebをインストールしてみよう

qwikWebは、qwik.jpのサービスを受ける形でも使えます。どのようなものかを試してみたい場合は、まずqwik.jpにアクセスして試用してみると良いでしょう。そして、qwikWebが便利であることがわかったら、自分のサーバにインストールして使うこともできます^{注4}。ここではqwikWebを自分のサーバにインストールする方法についてまとめます。

インストールのシナリオ

インストールのシナリオとして次のような状況を想定します^{注5}。

- <http://www.gihyo.co.jp/>の管理者であり、gihyo.co.jp以下のDNS設定を行える
- 自分のメールアドレスはalice@gihyo.co.jpであり、同僚のメールアドレスはbob@gihyo.co.jpである
- qwikWeb専用Debian GNU/Linuxマシンをあらたに1台用意し、ホスト名qwik.gihyo.co.jp、グローバルIPアドレス192.0.2.2を割り当てる
- <http://qwik.gihyo.co.jp/>にqwikWebを設置し、test@qwik.gihyo.co.jpなどといったメーリングリストアドレスにする

すでに稼働中のサーバにqwikWebをインストールすることもできますが、説明をわかりやすくするために本稿ではこの状況での設定方法のみを扱います。

インストール環境

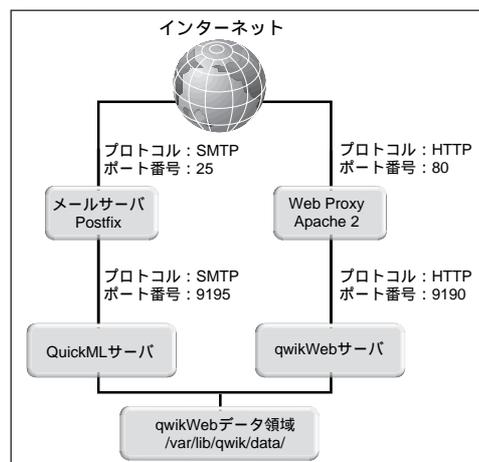
インストール環境としてDebian GNU/Linux sargeを前提とします。Debian以外のLinux、FreeBSD、

Mac OS Xなどでも動作するものと思われませんが、詳しい設定方法はqwikWebのWebサイト (<http://qwik.jp/qwikWeb.html>) にて確認してください。インストール方法としては、Debian向けに配布しているdebパッケージを 사용합니다。

qwikWebはメーリングリストとWikiが統合されたシステムであるため、メールサーバとWebサーバの両方が適切に設定されていないと動きません。まず、今回インストールするシステムの動作概念図(図2)をご覧ください。

今回はこの図に示すように、qwikWebへのアクセス中継をするメールサーバとしてPostfix(バージョン2.1.5-9)、WebのリバースProxyサーバとしてApache 2(バージョン2.0.54-5)をインストールしていきま。メールサーバには、Postfixの他にqmailやExim4などでも動作しますが、複雑になるた

図2 動作概念図



注4) NACL (<http://qwik.netlab.jp/>) やcodeblog (<http://www.codeblog.org/>) などで使われています。
注5) あくまでも仮定です。本当にgihyo.co.jpにqwikWebが設置されているわけではありません。

リスト1 DNSへの設定

```
qwik IN A 192.0.2.2
qwik IN MX 10 qwik
```

リスト2 /etc/apt/sources.listへの追加内容

```
deb http://www.eto.to/deb/ ./
deb-src http://www.eto.to/deb/ ./
```

め本稿では扱いません。

注意

この記事は、qwikWebバージョン0.8.2をベースに書かれています。qwikWebは活発に開発が行われており、以降のバージョンでは設定項目などに変更が加えられる可能性があります。よってこの記事を読んだらすぐにでも試してみましょう。(:D

インストールの流れ

まず最初にqwikWebをインストール/設定し、単体での動作確認をします。次に、リバースProxyサーバ (Apache 2)、メールサーバ (Postfix) の設定を行います。Apache 2、Postfixの基本的な設定方法はすでにある程度理解しているものとし、qwikWebをインストールする際に特有の変更点のみを扱います。その後、最終的な動作確認をします。

DNSの設定

まず、ホストのDNSを設定します。gihyo.co.jpドメインのネームサーバにリスト1の設定を追加します。メールを受信するために、このようにAレコードとMXレコードの両方を指定してください^{注6}。

qwikWebのインストール

次に、debパッケージを利用するために、/etc/apt/sources.listにリスト2の2行を追加します。追加後、apt/パッケージデータベースを更新します。

```
# aptitude update
```

```
debパッケージのqwikWebをインストールします。
```

```
# aptitude install qwik
```

動作に必要なパッケージも含めて自動的にインストールされます。GraphVizプラグインを使いたい場合には、graphvizとttf-sazanami-gothic/パッケージをインストールしておく必要があります。

注6) DNSの設定は、本誌2005年11月号の特集などを参考にすると良いでしょう。

リスト3 /etc/qwik/config.txt

```
:mL_port: 9195

# Public Web address.
:public_url: http://qwik.gihyo.co.jp/ 変更
:default_sitename: www

# Mailing list setting.
:mL_domain: qwik.gihyo.co.jp 変更
:mL_postmaster: alice@gihyo.co.jp 変更

# Send mail setting.
:smtp_host: 127.0.0.1
```

```
# aptitude install graphviz ttf-sazanami-gothic
```

設定ファイルの変更

この状態でqwikWebはインストールされた状態になっています。設定ファイル/etc/qwik/config.txtを変更しておきましょう。リスト3のように、デフォルトで用意されている/etc/qwik/config.txtのpublic_url、mL_domain、mL_postmasterの3項目を修正して設定します。それ以外の個所はデフォルトのままにしておきます。

ここで設定する3項目を説明します。

```
:public_url: http://qwik.gihyo.co.jp/
```

外部からそのqwikWebサイトにアクセスする場合は、http://qwik.gihyo.co.jp/というURLでアクセスできるということを意味しています。

```
:mL_domain: qwik.gihyo.co.jp
```

たとえば、testというグループのメーリングリストアドレスは、test@qwik.gihyo.co.jpとなります。

```
:mL_postmaster: alice@gihyo.co.jp
```

エラーなどがあったときに使われる管理者のメールアドレスです。とくにドメイン名を「gihyo.co.jp」に揃える必要はありません。

qwikWeb再起動

設定ファイルを変更後、下記コマンドでqwikWebを再起動します。

```
# /etc/init.d/qwik restart
```

この状態で、qwikWebのメールサーバとWikiサーバは立ち上がっています。外部との連携を取るためのPostfixとApache 2を設定する前に、まずはqwikWeb単体での動作を確認しておきましょう。

図3 qwikWeb起動時の画面

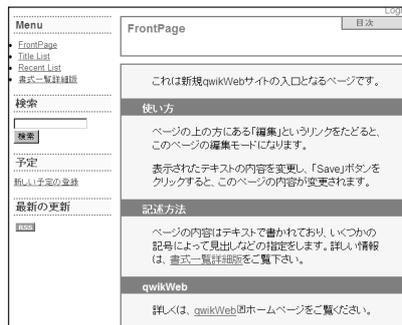


図4 メールングリストサーバの動作確認

```
% telnet 127.0.0.1 9195 入力
Trying 127.0.0.1...
Connected to localhost.
Escape character is '^]'.
220 localhost ESMTP QuickML
QUIT 入力
221 Bye
Connection closed by foreign host.
%
```

まずWikiサーバ部分の確認です。今回の例であれば、`http://qwik.gihyo.co.jp:9190/` にアクセスしてみます。そこでqwikWebの画面（図3）が表示されればWikiサーバ部分のインストールはうまくいっています。続いてメールングリストサーバの動作確認をします。図4のようにtelnetで動作確認をします。反応が返ってきたら、無事動作していることがわかります。

リバースProxyの設定

WebサーバのリバースProxyとしてApache 2を設定します。qwik.gihyo.co.jpのポート80番へのアクセス、つまり、`http://qwik.gihyo.co.jp/`へのアクセスがあったら、そのアクセスを同じホストのポート9190番に転送するという設定です。

`/etc/apache2/sites-available/qwik`というファイルをリスト4のように作成します。ここでは、ProxyPassという1行が鍵になります。この指定により、あるURLへのリクエストを全て別のURLへと転送すると設定したことになります。

設定完了後に次のコマンドを実行して、設定を反映させてください。

```
# a2ensite qwik
# /etc/init.d/apache2 restart
```

Webブラウザから`http://qwik.gihyo.co.jp/`にアクセスしてみてください。先ほどのポート9190番にアク

リスト4 /etc/apache2/sites-available/qwik

```
NameVirtualHost *:80
<VirtualHost *:80>
ServerName qwik.gihyo.co.jp
ErrorLog /var/log/apache2/qwik-error.log
CustomLog /var/log/apache2/qwik-access.log combined
LoadModule proxy_module /usr/lib/apache2/modules/mod_proxy.so
LoadModule proxy_http_module
/usr/lib/apache2/modules/mod_proxy_http.so
ProxyPass / http://127.0.0.1:9190/
</VirtualHost>
```

リスト5 /etc/postfix/main.cf

```
mydestination = qwik.gihyo.co.jp
local_recipient_maps =
fallback_transport = smtp:127.0.0.1:9195
smtpd_authorized_verp_clients = 127.0.0.1/8
```

セスしたときと同じ画面が表示されれば、qwikWebのWiki部分の設定は完了です。

メールサーバの設定

Wiki部分の設定が終わりましたので、次にメールングリストサーバの設定を行います。まず最初に、普通のメールサーバとして動くかどうかを確認しておくの良いでしょう。普通の設定とはつまり、外部からalice@qwik.gihyo.co.jpというメールアドレスにメールを送ると、それをqwik.gihyo.co.jpにて受信することができ、また逆にqwik.gihyo.co.jpからalice@gihyo.co.jpにメールを送るとちゃんと届くといった状態です。

このように普通の動作を確認しておく、DNSが正しく設定されているかどうかを確認することができ、後で問題が起こったときに問題の切り分けが容易になります。この設定方法は普通のメールサーバの設定と同じなので省略します。

さて、この動作確認ができれば、次に受け取ったメールをポート9195番で動いているqwikWebのメールングリストサーバに転送するよう設定します。

まず、Postfixの設定ファイル`/etc/postfix/main.cf`をリスト5のように設定します。

ここでは、`fallback_transport`の指定が鍵となります。ここで指定されたアドレスにメールを転送します。また、`local_recipient_maps`を空にすると、存在しないアドレスでもメールを受け取るようになります。

その後で、変更を反映させます。

```
# /etc/init.d/postfix restart
```

これで、qwik.gihyo.co.jpドメイン宛のメールはすべ

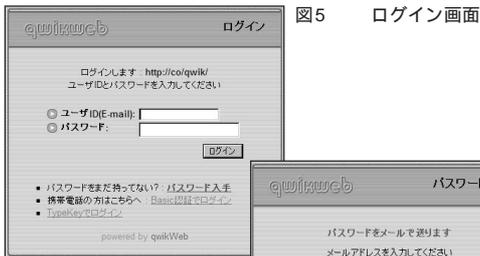


図5 ログイン画面



図6 パスワード入手画面

てポート9195番に転送されるように設定されました。

メール送信の確認

次にメールサーバ関連の動作確認を行います。まず、メール送信から確認します。http://qwik.gihyo.co.jp/にアクセスし、右上の「Login」を辿ってログイン画面に行きます(図5)。

次に「パスワード入手」を辿ってパスワード入手画面にいけます(図6)。ここで自分のメールアドレス(たとえばalice@gihyo.co.jp)を入力し「送信」ボタンを押すと、パスワードが届くはずですが。

メール受信の確認

メーリングリストサーバとして動作させるにはメールを受信できる必要がありますので、次にメール受信を確認します。

たとえば、test@qwik.gihyo.co.jpというアドレスのメーリングリストを作ることを想定してみます。qwikWebでは、そのアドレスにメールを送ることでメーリングリストの作成を指示します。このメーリングリストで外部からの受信を確認してみます。

まず最初に、現時点でのデータディレクトリを確認します。

```
# ls -l /var/lib/qwik/data
```

とすると、qwikWebのデータディレクトリの一覧が見られますが、現在はまだtestというディレクトリはないはずですが。

次に、外部からtest@qwik.gihyo.co.jpというアドレスにメールを送ってください。うまく受信できればこれだけでメーリングリストが作成されるはずですが。

```
# ls -l /var/lib/qwik/data
```

として、testというディレクトリができていどうかを確認してください。

もしできていなければ、どこかの設定がうまくいっていません。上記のtransportの設定を確認したり、Postfixのログを見てみましょう。

testというディレクトリができていれば、インストールは無事完了です。お疲れさまでした。

サイトパスワードの設定

最終的な動作確認が済んだら、外部に公開する前にサイトパスワードを設定しておきます。qwikWebでは各ユーザのパスワードは種となるサイトパスワードを元に自動生成しています。

/etc/qwik/password.txtに何らかの適当な文字列を入力しておきます。こうすると各ユーザのパスワードがすべて変更されますので、再度パスワード入手画面に行き、自分のメールアドレスを入力してパスワードを取得してください。

以降で、インストールしたqwikWebの使い方を紹介します。

qwikWebの使い方

新しくWikiサイトを作ってみる

新しくWikiサイトを作って、qwikWebを使い始めてみましょう。テスト用として次のようなアドレスを使うことを想定します。

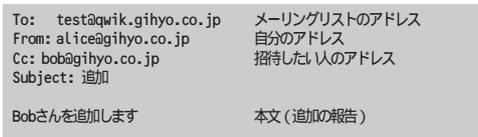
メーリングリストアドレス: test@qwik.gihyo.co.jp

Wikiサイト: http://qwik.gihyo.co.jp/test/

先ほどの動作確認ですでに作った方もいるかと思いますが、再度最初から説明します。

まず、最初にメーリングリストを作りましょう。test@qwik.gihyo.co.jpというアドレスでのメーリングリストを作りたいときには、まずそのアドレスにメールを送ることで作成を指示します。Subjectは何でも良いですが、本文は空ではだめです。また、HTML

図7 メンバ追加のメール内容



メールも避けてください。

作成後、test@qwik.gihyo.co.jpにメールを送ってみましょう。メーリングリストが作成され、送ったメールが最初の1通として到着しているはずで、届いたメールの一番下を見てみましょう。メール本文に加えてフッタが付いています (HTMLメールの場合にはフッタは付きません)。ここでは、このメールに対応するWikiページのURLが書かれています。そのURLを辿ってページを表示させてみましょう。

アクセスすると、対応するWikiサイトの画面に移るはずですが、最初はログイン画面になります。qwikWebのWikiサイトは認証しなければ表示されません。ユーザ名には自分のメールアドレスをいれますが、パスワードはシステムが自動的に生成したものを取得します^{注7}。

まず「パスワードを入手する」というリンクを辿ってパスワード取得画面に移り、自分のメールアドレスを入力してパスワードを取得します。送られてきたメールに書かれているパスワードを使って、ログインしてください。無事ログインできたら、先ほどの図3と同じ画面が表示されるはずで、

ページを編集してみる

右上の「編集」からページ編集画面に移ります。内容を少し変更してから「保存」を押してみましょう。ページが書き替わっているはずで、「もっと詳しい書式」のリンクを辿ると、使える書式の一覧が表示されます。

メーリングリストに投稿されたメールは自動的にWikiページになりますので、作成のために送ったメールもページになっているはずで、見てみましょう。

ユーザを追加する

このメーリングリストおよびWikiサイトにメンバを追加したい場合は、図7のようなメールを送ります。このように、追加したいメンバのアドレスをCcに記述してメーリングリストにメールを送ると、それだけ

注7) 自分の好きなパスワードを使いたい人もいるかと思いますが、そのような機能はありません。その代わりにTypeKeyを使ってログインできるようになっていますので、そちらをご利用ください。

図8 qwikWebの編集画面



でそのメンバがリストに追加されます。

ここまでで、メーリングリストの作成、対応するWikiサイトの閲覧、ページの編集、メンバーの追加までができました。これで、qwikWebの基本的な操作をひととおり行えるようになりました。これでもう基本的な使い方はマスターしたことになります。

編集画面を使いこなす

もう少しつっこんだ使い方を見ていきましょう。編集画面 (図8) の右側に、さまざまな機能へのリンクがありますので、それを説明していきます。

オンラインヘルプを見る

編集画面右上の「qwikWebの使い方」というリンクからオンラインヘルプが表示されます。ここから個々のプラグインの使い方を見ることができます。

ページの機能

ページを操作する機能です。項目ごとに見ていきましょう。

バックアップ

qwikWebではページ編集のすべての履歴を保存しています。「バックアップ」から過去の編集履歴一覧を見ることができます (図9)。個々の日付を辿ることで、1つ前の状態との差分が表示されます (図10)。

タイムマシーン

「タイムマシーン」では、その過去の編集履歴をイ

図9 バックアップ一覧



図10 前回からの差分表示

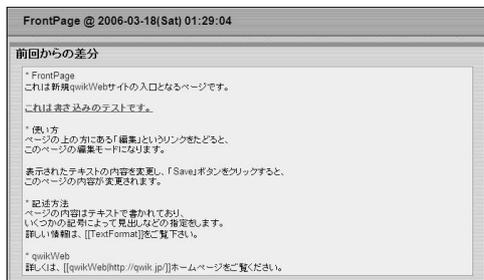


図13 その場で編集モード



インタラクティブに表示させることができます(図11)。これは実際に使ってみるとわかりやすいでしょう。左上に「これを動かして下さい」という小さなウィンドウが出てくるので、そのタイトルバーの部分をつまんで左右に動かすと、ページの過去の状態から現在の状態までを動的に変化させて表示させることができます。

プレゼンモード

ページをプレゼンモードで表示します(図12)。見出しがページの区切りとなります。ページをクリックすると次のページにいきます。

その場で編集

qwikWebでは普通のWikiと同じようなWiki記法による編集に加え、ページを見たままその場で編集(WYSIWYGモードで編集)することもできます^{注8}(図13)。

ページの上にツールバーが表示され、左端のアイコンでセーブされます。

また、このモードで編集している最中に、他の人がその同じページを編集した場合、左上に「Update!」という表示が即座に出ます(図14)。

注8) 残念ながら、この機能は現在はまだInternet Explorerでしか動作しません。その他のWebブラウザへの対応は現時点では未定です。

図11 タイムマシーン

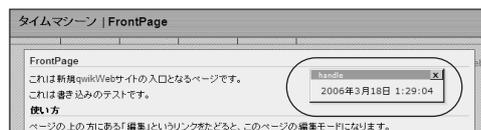


図12 プレゼンモード



図14 左上に「Update!」が表示されている



「Update!」という文字をクリックすると、最新のページにいきます。このように、複数人で同時に編集することを容易にしています。

サイト管理

サイト管理のための機能を見ていきます。

サイトメニュー

サイト管理に関する設定をここから行うことができます。qwikWebでは、左側にあるサイドメニュー、上にある管理メニュー、下に出るページアトリビュートなど、すべてがページとしてカスタマイズできます。サイトメニュー内のリンクから辿ってください。

サイト設定

サイトごとの設定を変更できます。

:open: false

サイトにはプライベートモードとパブリックモードの2種類のモードがあります。デフォルトのプライベートモードではメンバだけが閲覧/編集を行えます。trueにすると、誰でもページを閲覧/編集できるパブ

表2 メーリングリストの設定項目

項目	デフォルト	説明
forward	false	投稿をメンバのみにするかどうか (true/false)
permanent	false	MLの生存期間を無限にするかどうか (true/false)
unlimited	false	メールの最大サイズを無制限にするかどうか (true/false)
max_members	100	メンバの最大数
auto_unsubscribe_count	5	自動的にメンバから削除される際の失敗メールの回数
max_mail_length	102400	メールの最大サイズ (バイト)
ml_alert_time	2073600	最後のメールからML消滅警告までの時間 (秒)
ml_life_time	2678400	最後のメールからML消滅までの時間 (秒)

集してください。

サイトアーカイブ

サイトが保持する情報を丸ごと1つのZIPファイルにまとめてダウンロードできます。元となるテキストファイルに

リックモードになります。

:theme: qwikborder

サイトの表示スタイル (テーマ) を選択できます。qwikborder, qwikcyan, qwikgreen (デフォルト), qwikviridianの4つから選択できます。「サイト管理」の「サイトテーマ」ページにいき、指示に沿って「theme.css」というCSSファイルを添付すると、自分独自のCSS ファイルを使うこともできます。

:sitename 技評のqwikWebサイト

ページタイトル内のサイト名が変更されます。

:reportmail:daily

編集記録のメールを1日1回送ると指定しています。「hourly」で1時間に1回、「weekly」で1週間に1回に設定されます。「false」で送られなくなります。

:redirect:false

外部サイトへのリンクをいったんリダイレクトするかどうかを設定します。標準の「false」では直接リンクされます。「true」にするといったんリダイレクトしてからリンク先に飛ぶようになります。リンク元を隠したい場合に利用します。

年表

サイトの今までの編集履歴を1枚の年表のように表示します。水色の四角が編集があったことを示します。

グループメンバー

メーリングリストのメンバ (= サイトにアクセスできるメンバ) を表示 / 編集することができます。ページを編集することで、ユーザの追加や削除を行えます。うっかり自分のメールアドレスを消したりすると、2度とアクセスできなくなってしまうので、注意して編

加えて静的なHTMLファイルも含まれているため、Webサイト上にアーカイブを展開するだけで静的なWebページとして公開できます。

サーバ管理者が全データをバックアップしたい場合は、/var/lib/qwik/data/以下を丸ごとバックアップすると良いでしょう。リストアする場合には、データを/var/lib/qwik/data/以下に展開します。

メーリングリストの設定

メーリングリストのデフォルトの設定は、qwikWebの設定ファイル (/etc/qwik/config.txt) で決められますが、メーリングリストごとに指定することもできます。「サイト管理」から「メーリングリスト設定」を辿り、そのページ内容を編集してください (表2)。

ちょっと進んだプラグイン

qwikWebはこれら基本機能以外にもいくつかの特徴的な機能を持っています。メーリングリストとの統合を活かした機能もあれば、普通のWikiでも採用できそうな機能もあります。それらの機能を紹介します。

スケジュール調整と予定管理

一般的なグループウェアでは、各自の行動予定を把握するために、メンバのスケジュール管理機能を備えています。しかし、一般のメーリングリストで考えれば、メンバの全スケジュールをあらかじめ入力させるのは現実的ではありません。

メーリングリストのようなゆるやかなつながりにおいてもうまく使えるようなスケジュール管理のしくみを考え、2つの機能として実装しました。

スケジュール調整機能

メーリングリストでスケジュール調整を行おうと思ったとき、たとえば候補となる日付一覧を挙げ、各自が自分の参加できる日に を付けていく、そんな方法

を取ります。これはつまり日付とメンバという二軸の表を共同編集する作業と同じことだと言えます。

そこでこの作業を容易にするために、テーブルの編集機能を楽に行えるようにしました。

まず、ページにスケジュールプラグインを埋め込みます。

```
{{schedule}}
```

ページには5×5の表が表示されます。それぞれの項目は入力フィールドになっており、任意の文字列を入れられます。入力してから「更新」というボタンを押すと、表が更新されます。このように、楽に表を更新できるようにしました。

この機能はスケジュール管理のために作ったものですが、任意のテーブル編集に使うこともできます。その場合はテーブルプラグインを使ってください。

```
{{table}}
```

予定共有機能

スケジュール調整の結果、ある予定が決まったとします。ではその予定の情報を共有しましょう。編集画面のサイト管理枠内の「新しい予定の登録」を辿り、予定する日付とタイトルを入力します。そうすると、その日付にその予定を登録したことになり、その予定ページの編集画面になります。

予定はまずサイドバーに予定が表示されます。同時

に、メーリングリストに送られたメールのフッタにも自動的に付くようになります。このようにして、ある予定情報を繰り返し目にするようになるため、メンバは予定を忘れることがなくなるでしょう。

プラグインを作ってみよう

qwikWebは自分でプラグインを作るのも簡単です。現在、筆者はRubyについてのWebマガジン『Rubyist Magazine』にて、qwikWebのプラグインの作り方を連載しています。プラグインの作り方を知りたい方は、ぜひこちらを参照してください。

<http://jp.rubyist.net/magazine/?0012-qwikWeb>

<http://jp.rubyist.net/magazine/?0013-qwikWeb>

おわりに

本稿では、メーリングリストとWikiの融合というアイデアの起源から始まり、インストール方法から使い方まで説明いたしました。グループコミュニケーションにおいて、メーリングリストとWikiを同時に使うことの利点を感じていただければ幸いです。今後は、より深い情報共有を行えるようなシステムへの発展を目指していきたいと考えております。

qwikWebの開発の一部は、IPA未踏ソフトウェア創造事業による支援を受けています。感謝の意を表します。 

Column

yomoyomoのWikiばなし

TEXT
yomoyomo

第10回 Wikiの書籍

Wikiが（比較対象にされることの多い）blogのはるが後塵を拝していることの1つに、それを扱う書籍の数があります。これは日本だけの話ではなく、アメリカでもWikiが主題の書籍は、ドイツで書かれた本の英訳が2005年に刊行されるまで、長らくBo Leuf, Ward Cunningham 著『The Wiki Way: Quick Collaboration on the Web』1冊という状況が続いていました。

日本では2002年に『Wiki Way』の邦訳、2003年に『結城浩のWiki入門』が刊行された後空白期間が続いていましたが、2005年末に九天社よりlivedoor WikiとPukiWikiを題材としたエンリューザ向けの『Wikiでつくるかんたんホームページ』が刊行され、今年には翔泳社より『PukiWiki 入門 まとめサイトを作

ろう!』が発売されます（本文執筆時点で4月12日発売予定）。

こちらはPukiWiki Developer Team総監督の増井雄一郎氏を中心とした執筆陣による、インストールからプラグインの作成、企業でのWiki利用まで網羅したPukiWikiの入門書です。

2005年はpukiwiki.orgドメインの失効という残念な出来事もありましたが、PukiWikiが先進性、拡張性の両面に優れた、日本で最も利用されるWikiエンジンであることに変わりはありません。決定的入門書と言える『PukiWiki入門』の刊行が、さらなるWiki利用者の増加につながり、そして願わくばWikiを題材とする他の書籍の刊行につながることを期待します。